

ふくしま ★ゆめ ★トライ

福島県内で夢に向かって
新たなチャレンジをしている方、
地域を盛り上げるために
頑張っている方を紹介します！



心がけているのは分かりやすく丁寧な語り。
聞き手が関心を持ちそうなポイントを深く
説明するようにしています。

訪れて終わりではなく、 未来につながる、そんな場所へ。

東日本大震災・原子力災害伝承館
職員兼語り部
横山 和佳奈さん(双葉町)



震災当時、請戸小学校の2階にあり10センチメートル程度浸水したピアノと共に、「さまざまな展示を見ていただき、その時何が起きたのかを知ってもらえれば」と横山さん。



館内を案内する横山さん。震災遺構の請戸小学校を訪れる前後で来る方も多いのだとか。



たうえおどり
請戸の伝統芸能「田植踊」の踊り手としても活躍。
地域の絆をつないでいます。

〒双葉郡双葉町大字中野字高田 39
☎ 0240 (23) 4402

浪江町出身の横山和佳奈さんは、双葉町にある東日本大震災・原子力災害伝承館(以下、伝承館)の職員兼語り部です。震災当時は浪江町立請戸小学校の6年生。原発事故による避難で、中学校から高校卒業までの期間を郡山市で過ごしました。中学生の時にカウンセラーに支えられたことをきっかけに、今度災害が起きた際は自分も誰かを支えたいとカウンセラーを志し、県外の大学へ進学しました。大学4年生の時に伝承館が開館。描いていた夢とは別の道でしたが、「故郷の浪江町に近い場所です。自分の体験や震災のことをたくさんの人に伝える仕事もよいのでは」と、インターシップを経て職員として働くことを選びました。その後、震災について伝えたいという強い思いから、語り部を志望しました。最初の講話は、請戸小学校の児童が避難する内容の紙芝居と自身の体験、防災教訓を組み合わせたものでしたが、自分の言葉で伝えたい内容が増え、請戸小学校での被災体験と原発事故後の経験を中心とした構成に変わりました。その後も「自分ならどうするか」と考えてもらおうと、聞き手に応じて内容を変える工夫もしています。「伝承館を訪れて終わりではなく、未来につながる場所にするため、語り部を続けながら防災に関する取り組みも行いたいです」と語ってくれた横山さん。これからの目標を語るその目は、福島未来を見据えていました。